感謝

平成二十三年五月二十五日～
平成二十三年六月二十四日

愛寿会・仁生園・第二仁生園への
ご協力ありがとうございます。

いつもご協力をいただき感謝申し上げます。なにとぞこれからもご支援のほどを、また、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。
略儀ながらお礼状に替えさせていただきます。

愛寿会後援会へのご協力

・北杜市須玉町　丸茂義直様
・甲府市武田　平井満雄様
・福生市北田園　小尾治様
・北杜市長坂町　守屋建設㈱様
・北杜市白州町　埴原守夫様
・小淵沢町下笹尾　内田英子様
・北杜市小淵沢町　宮沢謙市様
・北杜市長坂町　窪田久子様
・北杜市長坂町　高橋かつ江様
・甲府市中村町　相良紀昭様
・甲府市中央　中山ユニホーム様
・韮崎市富士見ヶ丘　清水秋彦様
・北杜市小淵沢町　山本昭二様
・北杜市長坂町　坂本良廣様
・北杜市長坂町　内田由紀子様
・北杜市高根町　伊藤祥潔様
・北杜市大泉町　㈲大泉タクシー様
・北杜市長坂町　入江薫様
・北杜市武川町　日向勝様
・北杜市長坂町　小林和義様
・北杜市須玉町　篠原徳幸様
・北杜市長坂町　浅川嘉富様
・北杜市長坂町　伊藤志朗様

金員・物品のご寄付

・北杜市長坂町　中山昇様
・北杜市長坂町　三井正雄様

ボランティア活動

・ハーモニカ演奏　山梨ハーモニカ協会　秋桜様
・お琴の演奏　若草琴の会様

・北杜市白州町　名取和夫様
・北杜市白州町　浅川治子様
・北杜市高根町　丸茂緑様
・北杜市長坂町　坂本天地様
・北杜市大泉町　中島傳様
・北杜市小淵沢町　小林健展様
・相模原市緑区　細木忠彦様
・北杜市長坂町　田中茂様
・北杜市大泉町　山崎勉様
・杉並区松ノ木　坂本正明様
・北杜市高根町　浅川文江様
・北杜市大泉町　萩原肥料店様
・北杜市長坂町　渡邊さつき様
・北杜市長坂町　川端下稔様
・北杜市須玉町　櫻井義長様

愛寿会後援会からのお願い

社会福祉法人愛寿会は、高齢者の皆様のための施設「仁生園」と、心身に障がいのある皆様のための施設「第二仁生園」を経営しています。愛寿会後援会は、両施設のサービス内容の更なる充実を図るためのバックアップ組織です。平成２３年度の具体的な事業としては、

- 職員が介護福祉士の資格を取得するための事前講習会の開催
- 入所者へのサービス向上、介護職員の労力軽減につながる介護用新製品を購入、試用し、安定的に使用可能と判断された場合に一般化する…その試行事業を実施する。

などを予定しています。

こうした事業をスムーズに展開することができますよう、継続お振込み、或いは新規にご加入くださいますようお願い申し上げます。

新規加入の方		継続の方	
○終身会員	20 万円以上	○個人会員（年額）	2,000 円以上
○個人会員（年額）	2,000 円以上	○法人又は団体会員（年額）	10,000 円以上
○法人又は団体会員（年額）	10,000 円以上		

会費の納入先

山梨中央銀行　長坂支店
口座名　社会福祉法人　愛寿会後援会
口座番号　普通預金番号　563608

郵便局
口座名　社会福祉法人　愛寿会
口座番号　00210-8　46492

事務局

山梨県北杜市長坂町小荒間 1293 番地
社会福祉法人愛寿会
電話 0551-32-3340 FAX0551-32-3546

愛寿会ホームページ　http://www.aijyukai.com　　E-mail：jinseien@poem.ocn.ne.jp

愛寿会だより

7月号
第145号
平成23年
7月1日発行

料金後納郵便
冊子小包
差出人（差出発送代行）
7-4
佐川物流サービス(株)
返送先：〒140-0012
品川区勝島 1-1-1
このお荷物はご依頼人様からお預かりした荷物を当社が差出人となって発送代行しています。

研究委員会集録第三号発行にあたって

仁生園ケアサービス部副園長（研究委員会担当）　植松喜代美

6月3日（金）の研究委員会の様子　　集録第3号が刊行されました

このたび研究委員会集録第三号を発行いたしました。

二年前の正月明け・・・といいますと二十一年の早々ということになります。理事長から研究委員会の成果を集録として刊行するよう命ぜられました。「果たしてできるか」と首を傾けましたが、纏めてみましたらなかなかの内容になりました。

理事長に「五年後は研究紀要に名称変更したいね」と言われました。広辞苑で「紀要」を引くと「大学・研究所などで刊行する、研究論文を収載した定期刊行物」とあります。「とてもとても・・・」と恐れ入りましたが、何はともあれ第三回目の集録が発行できて嬉しく思っています。職員の皆様には「感謝」のひとことです。

愛寿会仁生園には七つの研究委員会があり、第二仁生園には十の研究委員会があります。ケアワーカーは全員が何れかの委員会に所属し、年間を通して研究・研鑽を積んでいます。しかし、職員の日常業務の中から、研究に費やす時間は思うに任せません。

それでも職員同士「明日が研究会だね」「今夜が勉強会だね」と励まし合いながら、回を重ね、討論し、日暮れの家路を急ぎながら、何か気付かされた自分を意識することが一再ならずあります。それが研究委員会の存在意義と研究委員会のメンバーは思っています。

高齢者はあと十五年増加する一方です。施設への入所を希望してもなかなか狭き門です。その門を通って入られる方は当然のことながら、介護度が三とか四とか五とかの重度という状況です。それに伴い、ケアワーカーの仕事の内容も複雑多様化する一方です。

仁生園においても二十年前の利用者は車椅子を利用する方は稀で、農園の作業をお手伝いしてくださる方が少なくありませんでした。現在は車椅子でないと移動できない方が圧倒的多数を占めています。入浴にあたっても、最近では三人のケアワーカーで事故のないように気をつけながら・・・という方が多くなりました。

私たちはこうした利用者の皆様、そしてそのご家族の皆様方に、「いかにご満足いただけるか」ということを朝な夕な考えながら努めさせていただいています。

研究委員会も、集録の発行も「その一環・・・」という思いです。どうかそんな私たちに今後とも一層のご理解、ご支援、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。

夏祭り

第二仁生園七月二十七日(水)午後六時から
仁生園　八月六日(土)午後六時から
ご家族の皆様ぜひお出かけくださいますように・・・！

今年の夏祭りの日程が決まりました。利用者の方々はご家族皆様のお出でを心待ちにしています。職員も楽しい一日を過ごしていただこうと、準備に余念がありません。

昨年（平成 22 年 8 月 7 日）の仁生園の夏祭り・・会場いっぱい人、人、人でした！

夏祭りの費用は毎年全額愛寿会後援会のご好意に拠っています。心より感謝申し上げます。両園とも祭り担当の幹事職員だけでなく利用者の皆様にも参加していただいてプログラム編成に着手しています。仁生園では、班ごとの演し物（だしもの）も内定し、歌謡曲や踊りの練習を開始しました。芸達者の職員も多く例年のとおり利用者との共演が拍手を呼びそうです。

第二仁生園では一段と腕を上げた太鼓チームが猛特訓中のほか、三月完成した作業所で書道・絵画・陶芸等の展示を計画しています。

それぞれボランティアの皆様の賛助出演も予定しています。

恒例による屋台での飲食の楽しみもあり、プログラム最後の盆踊り、そして花火も特別盛大にしたいと関係者一同張り切っています。

昨年(平成 22 年 7 月 28 日)の第二仁生園の夏祭り･･･みんな楽しそう！

六月の仁生園の誕生会、とても盛大でした
七月は仁生園が十三日第二は二十日
ご家族皆様のご来園をお待ちしています

愛寿会だより六月号でご家族皆様のご参加をお願いしましたところ、六月七日には、県外にお住まいのご兄弟姉妹（ごきょうだい）三人が連絡を取り合って駆け付けてくださるなど、六家族十人が食事を共にしました。千葉市からお越しのオペラ歌手Kさんが写真のように「月の砂漠」など三曲をご披露くださるなど、大変盛り上がりました。

日程は、見出しのとおりです。

ぜひ、お出かけください。

6月7日　ご家族１０人が参加された、仁生園誕生会の様子

仁生園利用者激励のために、山梨県ハーモニカ協議会「コスモス」の皆様がお見えになりました

六月十四日（水）平賀ひろじ山梨県ハーモニカ協議会会長、青柳昭次コスモス代表(長坂町出身)ほか十三人の方々にお越しいただきました。青柳さん以外は全員甲府市から駆け付けてくださったのです。

会場のホールには六十人ほどが集まりました。利用者の方々が二十代、三十代の頃ハーモニカは最もポピュラーな楽器で誰もが手にしたそうです。

なつかしい曲ばかりで合唱に熱が入りました

コスモスの皆さんは「茶摘み」「武田節」「ふるさと」「誰か故郷を思わざる」「湖畔の宿」など十曲を披露してくださいました。

六十人の皆さんに職員も加わって全員で全曲を合唱しました。

とても楽しく、印象的なつどいでした。

仁生園やすらぎ・第二仁生園で食用菊を植えました！　秋が楽しみです

六月六日（月）長坂町大八田在住の方から、自宅の庭で毎年咲く山形県産の食用菊「モッテノホカ」の挿し芽を沢山戴きました。それをそれぞれのミニ農園に植えました。

根はありませんが、朝夕の水やりを十五日ほど続けますと発根し定着するそうです。秋のお彼岸頃にはピンクの菊が見事に咲くそうです。

十年ほど前に山形県の友人から贈られたものだそうですが隔年に挿し芽をしてきたので今も立派に咲くそうです。

6月6日〈月〉第二仁生園での挿し芽の様子、楽しいひととき

「モッテノホカ」をインターネットで調べましたら「山形県の名産。名称の由来は、皇室の御紋章である菊の花を食用にするとはモッテノホカ…というところから…とする説と、モッテノホカおいしいところから…とする説と二説ある」とありました。おいしい食べ方も教えていただきました。秋の楽しみが一つ増えました。

総関東・甲信越地区身体障害者施設協議会　2011年度第1回総会・施設長会議開催

見出しの会議が六月十六日(木)と十七日(金)の二日間、甲府富士屋ホテルで開催されました。

今年は山梨県が開催当番県で、幹事の第二仁生園も当日までの準備をしてきました。関東近県から約百五十人の参加者があり盛大に終始することができました。特に日本社会事業大学社会福祉学部の教授であり、内閣府・厚労省「障がい者制度改革推進会議総合福祉部」部会長でもある佐藤久夫先生による

6月17日〈金〉佐藤久夫教授による研修会

150人の参加が熱心に聴講しました

「障害者自立支援法から障害者総合福祉法へ…変更点と今後の課題」と題する二時間にわたっての研修会は、今後の障害者福祉のさまざまな課題をわかりやすく提起され、それへの取り組み方をご示唆くださったものでたいへん勉強になりました。同時に国家財政がかつてなく厳しいときに、どうして障害者の福祉を維持し向上を図っていくか、先行き容易でないことを感じました。